



京都から行ける

近江の山々

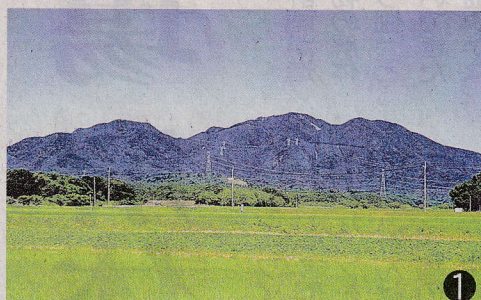
7 綿向山

写真①。別名は大嶽、朝日山、錦面山などとも呼ばれ、全山が秩父古生層に覆われている。植生は山麓から中腹はスギ・ヒノキの植林。7合目から9合目はブナ・ミズナラ、シデ類の二次林。低木林はアセビ・ムラサキシキブなどがある。

綿向山（1110㍎）は滋賀県日野町と甲賀市にまたがり、鈴鹿山脈主稜線の御在所岳の西に位置する。日野町では標高にちなんで11月10日を「綿向山の日」と制定していて、この日、山はにぎわう。

山名の由来は「天穂日命以下三神の神霊が山頂に降りた時、降雪で山が綿に包まれた様に見えた」との伝承がある。付近は養蚕の地であり「わたつむぎ」が転訛したとも言われている。

中世は山岳信仰の霊山



①



②



③

登山ルートはいろいろあるが、ここでは表参道を案内する。登山口は西明寺口バス停から林道を進むとすぐ左手に御幸橋駐車場がある。マイカー登山はここに駐車。冬季は、樹氷で人気があり駐車場は満車になる。ここから道は川沿いに進む。

砂防ダムの堰堤が見え、階段道を上がると北畑谷林道に出る。しばらく行くと右手に「綿向山麓接触変質地帯」の石碑。接触変成帯と花こう岩の境界部が露出し、1942（昭和17）年に国の天然記念物に指定された。

林道が終わると表参道の登山口であるヒメズ谷出合小屋がある。ここで登山用を出し、山道となる5合目小屋まで樹林の中を整備された緩い傾斜のジグザグを登る。3合目を過ぎると左手にあざみ小舎。登り切ったら5合目小屋だ。写真②。綿向生産森林組合の作業小屋だった（78（昭和53）年に山小屋として改築された。小屋には安全登山と綿向山を次世代に引き継ぐ願いを込めて「夢咲の鐘」が設置されている。日本山岳会京都・滋賀支部 伊原哲士）

この5合目小屋からはなかなか山腹道を登り、次のポイントへ。ベンチが設置され、役行者と不動明王の像とほこらがある行者堂に着く。ここからは、冬道と夏道に分かれる。冬は真つすぐ急坂を直登し、夏道は右へとゆくり進む。やがて、石の階段を一気に登ると眺望が開け山頂に出る。写真③。広い山頂には青年の塔と大高神社がある。展望が広がり、東に雨乞岳・鎌ヶ岳の鈴鹿山脈の山々を遠望できる。下山は元の道を下る。歩行距離約10㍎、歩行時間約6時間。

アクセス 公共交通ならJR近江八幡駅か近江鉄道日野駅から、近江鉄道バス北畑口行き乗車。終点の北畑口下車。日野町営バスに乗り換え西明寺口下車（北畑口から

は徒歩約40分）。マイカー利用の場合、新名神甲賀土山ICか、名神八日市ICから国道477号経由で西明寺口バス停から御幸橋駐車場。